

都市再生整備計画 事後評価シート
太田川駅周辺地区

平成27年3月

愛知県東海市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県		市町村名	東海市		地区名	太田川駅周辺地区			面積	473ha			
交付期間	平成22年度～平成26年度		事後評価実施時期	平成26年度		交付対象事業費	16,036.1	国費率	0.484					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路(名和養父線-太田川駅前線、名和養父線-太田川駅北線)、下水道(東海太田川駅周辺土地区画整理事業区域内)、地域生活基盤施設(駐車場(駅東)、太田川駅高架下自転車等駐車場整備)、高質空間形成施設(緑化施設(駅前広場(駅西)、駅前歩道)、50m歩道整備、駅西歩道整備)、高質空間形成施設(エコプロムナード(渡内川右岸3号線始め5路線))、高次都市施設(地域交流センター(市民活動センター)、子育て世代総合支援センター(子育て総合支援センター))、土地区画整理事業(東海太田川駅周辺地区)											
		提案事業	地域創造支援事業(大田児童館耐震補強工事(大田児童館))、エコ推進事業(太田川駅前)、太田川駅にぎわい創出・PR事業											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(下浜田1号線)、高質空間形成施設(緑化施設(駅前広場(駅西)、駅前歩道))公園(御洲浜公園、天尾崎公園)		削除/追加の理由 道路(下浜田1号線)、高質空間形成施設(緑化施設(駅前広場(駅西)、駅前歩道))地方都市リノベーション事業へ移行するため。公園(御洲浜公園、天尾崎公園)地権者同意が得られないこと、交付期間内に供用開始が難しいことなどから、関連事業へ移行するため。				削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 影響なし					
		提案事業	地域創造支援事業(いきいき元気推進事業(健康いきいきガイドブック))、事業活用調査(まちづくり交付金事業評価分析)		本事業を「提案事業」から社会資本総合整備計画の「効果促進事業」へ移行するため。ただし、本都市再生整備計画の関連事業に位置付ける。				影響なし					
	新たに追加した事業	基幹事業	(地方都市リノベーション事業への移行) 道路(名和養父線-太田川駅北線、下浜田5号線始め2路線)公園(大田公園) 下水道(東海太田川駅周辺土地区画整理事業区域内) 高質空間形成施設(緑化施設(駅前広場(駅東)整備) 高次都市施設(地域交流センター(太田川駅西地区文化施設整備)) 高次都市施設(地域交流センター(太田川駅西地区地域交流施設)) 土地区画整理事業(東海太田川駅周辺地区) 市街地再開発事業(太田川駅西地区)		従来、他事業で取り組んでいたものを「地方都市リノベーション事業」で行う事業に関しては、事業の進捗に合わせて、事業の一部を地方都市リノベーション事業へと移行するため。 高次都市施設(観光交流センター(観光物産プラザ)):事業計画に、ある程度の目途が立ち、交付期間内に完了するため。 高次都市施設(人工地盤等(太田川駅東公共施設連絡通路)):まちの回遊性を高め、安全・安心で利便性の高い都市拠点の形成を促すもの。 地方都市リノベーション推進施設(教育文化施設(日本福祉大学)):民間が行う事業で、市民の生涯学習の場の創設及びにぎわい創設を期待し追加するもの。				影響なし					
		提案事業	地域創造支援事業(放置禁止区域等標識等設置事業) 地域創造支援事業(太田川駅前トイレ等整備事業)		中心市街地への来場者が、安全安心に利用できるように、事業の進捗に合わせて当地区内に不足している内容を補うため。				影響なし					
	交付期間の変更	当初	-		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-					
	変更	-												
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
		指標1	太田川駅の乗降客数	人/日	13,243	H19	13,830	H26	モニタリング	評価値	14,306	○	あり	土地地区画整理事業や交通機能の整備、PR事業等により、駅周辺の居住、交通環境の向上及び駅利用の機会創出が図られ、駅乗降客数が増加した。
指標2		健康であると感じている人の割合	%	29.9	H20	45.6	H26			39.3	△	あり	健康づくりの場となる大田公園やエコプロムナード等が一部整備にとどまり、連続した整備が出来なかったため、健康であると感じている人の割合が目標値に満たなかった。	平成28年7月
指標3		環境に配慮してマイカーの利用を工夫している市民の割合	%	45.4	H20	61.0	H26			43.7	×	あり	駅周辺の交通機能の整備により、公共交通利用環境が向上したものの、交通結節点としての認知がなされず、住民の意識の変化につながらなかった。	平成28年7月
指標4		まちの公園・街路樹などに満足している人の割合	%	59.0	H20	65.0	H26			64.5	△	あり	大田公園やエコプロムナードが一部整備にとどまるため、市民へのPRが不足し、期待した満足度が得られなかった。	平成28年7月
指標5		大田まちづくりの会の会員数	人	59	H21	71	H26			47	×	あり	駅を中心とした交流・市民サービス機能の整備・向上が図られたが、事業進捗に伴い大田まちづくりの会に求められる役割が縮小し、目標達成に至らなかった。	平成28年8月
指標6		駅前イベント広場のイベント参加者数	人/回	0	H23	2,500	H26			5,235	○	あり	駅前広場や50m歩道等、駅周辺の交通結節機能の整備により、駅前に人が集まりやすい環境が整備され、イベント参加者が増加した。	平成27年7月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	公園緑地面積	ha	29.9	H21					31.3			土地地区画整理事業や大田公園や50m歩道等整備により公園用地が整備され、地区内の公園・緑地が充実した。	平成27年7月
	その他の数値指標2	子育て総合支援センター利用者数	人	0	H22					36,291			駅前での子育て総合支援センター整備に加え、施設周辺の交通機能整備等により、施設を気軽に利用できる環境が整ったことで、利用促進につながった。	平成27年7月
4)定性的な効果発現状況	「太田川駅周辺地区まちづくりニュース」、「太田川駅周辺整備 かわら版」等、広報誌やウェブを通じて地域に幅広く情報発信が行われた。 ・高校生が提案したゆるキャラが、平成24年に「東海市まちづくり応援大使」に任命され、太田川駅前イベント広場で開催するイベント盛り上げに貢献している。													
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等									
	モニタリング	-		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					-			
	住民参加プロセス	「大田まちづくりの会」による太田川駅周辺のまちづくり活動		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 今後も、これらのまちづくり活動を継続・発展させ、地域住民主体のまちづくりを推進する。			
	持続的なまちづくり体制の構築	大学の整備を進める民間事業者との連携(株)まちづくり東海による中心市街地活性化に向けたまちづくり活動		-		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった					● 開学を見据え、施設完成前に協定書締結予定。 ● 都市再生推進法人制度の活用等により、太田川駅前の広場や歩道の維持管理を一元化し、まちのにぎわい創出を図る。			

様式2-2 地区の概要



まちの課題の変化

- ・連続立体交差事業の完了と合わせ、新駅舎、駅前広場が供用開始されるとともに、駅へのアクセス道路や、交通施設の整備が進み、駅を中心とした公共交通利用環境が飛躍的に向上した。しかし、交通機関相互の乗り継ぎの利便性については、改善の必要がある。
- ・都市基盤整備の一体的な事業実施により、基幹となる土地区画整理事業の事業進捗率が約8割に達したが、大田公園等の未整備箇所が依然残っている。
- ・大田公園、エコプロムナードの一部整備が進んだが、公園・緑地等のネットワーク化が不十分である。
- ・駅前イベント広場の整備により、駅を中心とした交流・市民サービス機能が向上し、また、住民との協働による駅前イベント開催・PR活動により、イベント等の参加者が増加している。今後は、多様な主体との連携による駅周辺の賑わい創出に取り組む必要がある。
- ・駅前での太陽光発電・ドライミストの整備など、地球環境の保全を意識した施設整備を実施した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・都市再生推進法人制度、アダプトプログラム制度等の活用により、駅前の公共空間の適切な維持管理を促進する。
- ・土地区画整理事業、下水道等の各種事業が連携した一体的な整備により、中心市街地の都市基盤のさらなる充実を図る。
- ・中心市街地の都市基盤の整備と教育施設、複合型文化施設等の一体的な整備により、市民や来訪者の学びの場、交流の場の形成を図る。
- ・地域住民や事業者等と連携し、環境に配慮したまちづくり活動を推進する。
- ・駅前広場や都市計画道路等の未整備箇所の整備とともに、バスルート・ダイヤの再編、案内板の設置等により、鉄道との乗り継ぎの利便性向上を図る。
- ・花・水・緑の基幹軸を構成する太田川沿いの親水空間や周辺の公園整備等により、市民が健康を享受できる潤いのある都市空間の形成を図る。
- ・まちづくり会社をまちづくりの担い手として都市再生推進法人に指定し、多様な主体との連携による駅周辺の賑わい創出を図る。